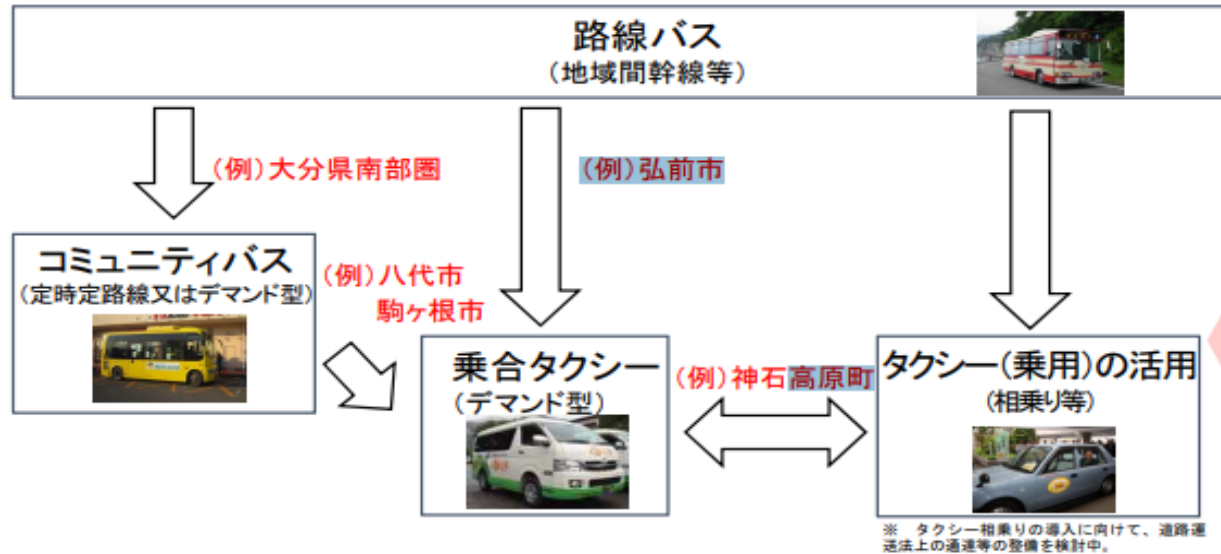


【町長・教育長】

通告順	8	質問 議員	長野議員
質問 項目	JR留萌本線廃止後を「オール沼田」で切り拓け		
質問 内容	<p>8月30日、留萌線沿線4市町は、廃止を受け入れ、石狩沼田—留萌間は来年3月末、石狩沼田—深川間は2026年3月末の廃止が決定した。</p> <p>これまでの鉄道ルネサンス構想など沼田町独自の存続努力は目を見張るものがあった。これらをJRなど縦だけではなく、「横」に全道179市町村を巻き込み、道民運動のうねりに繋げられなかったことが悔やまれる。しかし、この横の広がりには活路があるのではないかと。与えられた3年半を最大限に活かすためには、「オール沼田を活かす英知の結集」こそ最重要と考える。</p> <p>具体的には、高校生の通学(現中学2年生以下)や高齢者の通院などの代替案が急務だが、利用者に参画してもらい、専門家の意見と融合させ、沼田ならではの廃線後の「未来図」を描く絶好の機会ではないかと。</p> <p>この1年が極めて重要だ。以下3点、町長の考えを聞きたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 「(仮称) JR留萌本線廃止後どうしたいか心配な人集まれ懇談会」略称JSAを小学4年生以上に呼びかけ、専門家をコーディネーターとした参加型ワークショップの開催を通し、未来を拓くオール沼田の風を起こしてはどうか。 2, JSAの人財とアイデアを活かし専門家を含む「(仮称) JR留萌本線廃止後プロジェクトチーム」設置により、廃止後の鉄道の未来図を練り上げ、次代に繋げる仕組みを創造し、構築してはどうか。 3, 1と2を併せ、代替交通成功事例やBRTなどの上下分離方式も視野に、子どもから高齢者までの利用者・バス会社・JR北海道・町で、参画協議し、道・国へのプレゼンに結実させ、全市町村のロールモデルとして「日本一の代替交通」の実現を目指してはどうか。 		

地域の実情に合わせた交通手段の見直し(ダウンサイジング等)の一般的なイメージ

- 地方公共団体、交通事業者等の地域の関係者の協議の下で、
- ・**路線バスについては生産性の向上を図るとともに、**
 - ・**地域の実情に合わせてダウンサイジング等(車両の小型化、運行経路やダイヤ(頻度等)の見直し等)による最適化を図りつつ、地方公共団体の公的負担によるコミュニティバス、乗合タクシー等の運行**
 - ・**自家用有償旅客運送の活用、スクールバス、福祉輸送等の積極的活用により、地域の暮らしや産業に不可欠な移動手段を持続的に確保。**



※上記に併せて、①運行経路・ダイヤ等の見直し、②利用促進等を実施

バス・タクシーによるサービスの提供が困難な場合

自家用有償旅客運送
(市町村自ら又はNPO等による運行)
(例)鳥取県西部、八幡浜市

スクールバス、福祉輸送、病院・商業施設等の送迎サービス等の積極的活用

需要規模に応じた効率的・効果的な運行

定時定路線
路線を定めて運行するものであって、かつ、路線毎にダイヤが定められている運行の形態。
⇒目的地への一定の輸送ニーズ(通学・通院等)を束ねることで効率的にサービスを提供できる。

デマンド型
路線・ダイヤを定めず、旅客毎の需要に応じた乗合運送を行う運行の形態。
⇒利用者の輸送ニーズに応じて、運行ルートや乗降場所を柔軟に設定できる。

※ 路線・ダイヤを定めず、乗客毎の需要に応じた乗合運送を行う運行の形態。利用者の輸送ニーズに応じて、運行ルートや乗降場所を柔軟に設定できる。

資料 2-①

◆鉄道事業者と地域の協同による地域モビリティの刷新に向けて
【抜粋 2022年8月 国土交通省鉄道局課長 田口芳郎氏】

BRTやバスへの転換や連携を実現した事例

■ BRTへの転換 (JR東日本 (気仙沼線・大船渡線))



- ・JRが引き続き運行
- ・時刻表にも掲載
- ・便数大幅増
- 気仙沼線：22本⇒65本
- 大船渡線：19本⇒53本

↓

鉄道と同等以上の
利便性を実現

資料 2-②

出典 2020年2月 JR 東日本技術イノベーション推進本部

◆JR 東日本気仙沼線で BRT 自動運転の実証実験を公開



資料 2-③

◆江差木古内線バス・・・人にやさしいイメージの車両



◆広報上ノ国 2020年5月号・・・使いやすいカードで乗降

カミ優待

江差木古内線 町内運賃が定額100円!!
小砂子線 (江差ターミナル ~ 膳棚・小砂子)

町では、4月から「バス利用者増のための実証実験」を令和4年3月まで実施しており、この実証実験の趣旨に同意いただける町民に、町内を運行する路線バスの町内運賃が定額100円となる、その名も“カミ優待”のICカード優待乗車券を発行しています。

今後、高齢化率の上昇とともに車を運転できる人の割合が減少するなど、公共交通の必要性が高まることが予想されます。これを機に自らの移動手段を自家用車から公共交通へと徐々に変えていきませんか？

**定額運賃で利用いただくためには、
ICASnimoca カードとカミ優待の申請が必要です!**

■	申請場所	函館バス(株) 江差営業所
■	対象者	上ノ国町民(全年齢)※75歳以上の免許返納者は別制度をご活用ください。
■	申請方法	申請書(2枚)に必要事項を記入し、身分証明書が必要となります
■	有効期限	4月1日~3月31日(1年ごとに更新が必要です)
■	利用者負担	2,000円(チャージ料1,500円+ 保証金500円(カード返却時に返金))

手続きは江差ターミナル

函館バス(株)江差営業所窓口まで行き、手続きを開始します。
※ICカード優待乗車券の発行となるため、役場での手続きはできません。

■持参するもの(本人による申請に限ります)

- ・身分証明書(マイナンバーカード、健康保険証、免許証などで現住所がわかるもの)
- ・利用者負担費用 2,000円

◆手続きに関するご不明な点は、江差営業所(0139-52-0025)へお問い合わせください。

観光鉄道として生まれ変わった「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」HP から



★4コース 2～5万円(5万円コースは一泊2食付き)



★中学生以上300円・小学生200円・小学生未満無料

銀河線で活躍した列車の「乗車体験」や実際に運転できる「運転体験」、足こぎ式の「トロッコ」などのアクティビティが楽しめます。※予約が必要です。

◆住所 〒089-4315 北海道足寄郡陸別町大通 TEL0156-27-2244

◆営業時間 4月下旬～10月下旬、9:00～16:30 (受付は16:00まで)

◆定休日 火曜日・水曜日 ◆駐車場あり ※道の駅の駐車場

◆公式サイト <https://rikubetsu-railway.jimdofree.com/>